

## 遺構の変遷と対応年表

時代	和暦	西暦	できごと	遺構の変遷
江戸時代	元禄8年	1695	織田信休が国替え、2万石を領する(後期柏原藩)	石組みと礎石遺構 <b>崇廣館創建期</b>
	正徳4年	1714	陣屋完成	
	文政1年	1818	陣屋焼失 (1820年再建)	
	安政5年	1858	崇廣館創設	
明治時代	明治4年	1871	廃藩置県により崇廣館廃校	埋桶 (SK02)、埋甕 (SK03)  タタキと漆喰土坑 (SK33) →排水施設か 瓦列 <b>崇廣館改築期</b>
	明治6年	1873	崇廣館小学校開校(同年、崇広小学校に改称)	
	明治12年	1879	氷上郡役所として使用(～明治41年)	
	明治15年	1882	講堂の2階部分を改築	
	明治42年	1909	講堂を改築して町立柏原病院として使用(～大正8年)	
大正・昭和・平成時代	大正11年	1922	講堂、日本自立聖書義塾として使用 柏原高等女学校、校舎等を増築	レンガ遺構(便所)  <b>崇廣館移築期</b>  柏原高等女学校講堂 ※岡林写真館発行
	昭和8年	1933	柏原高等女学校の講堂建設のため、大手通に移築	
	昭和9年	1934	柏原高等女学校の講堂完成	
	平成19年	2007	部材を残し解体	

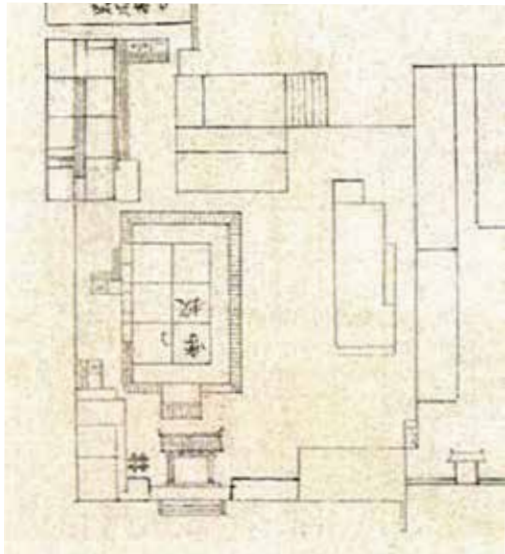
## 崇廣館の構造と変遷

崇廣館は安政5(1858)年、陣屋の北西隅に藩校として創設されました。講堂のほか校門にあたる尚徳門や土蔵、柔術・槍術稽古場、塾(明治期に新設か)が併設され、講堂のみが明治以降も存続しました。

講堂は古写真や現存時では2階建の建物となっていますが(右下図)、これは明治期に増築されたものであり、創建当時は平屋で、縁を巡らし三方に入側と6室の広間が設けられたとされます。平成の保存解体工事の調査によって複数回の改修があったことが判明しており、大きく三つの時期にまとめることができます。

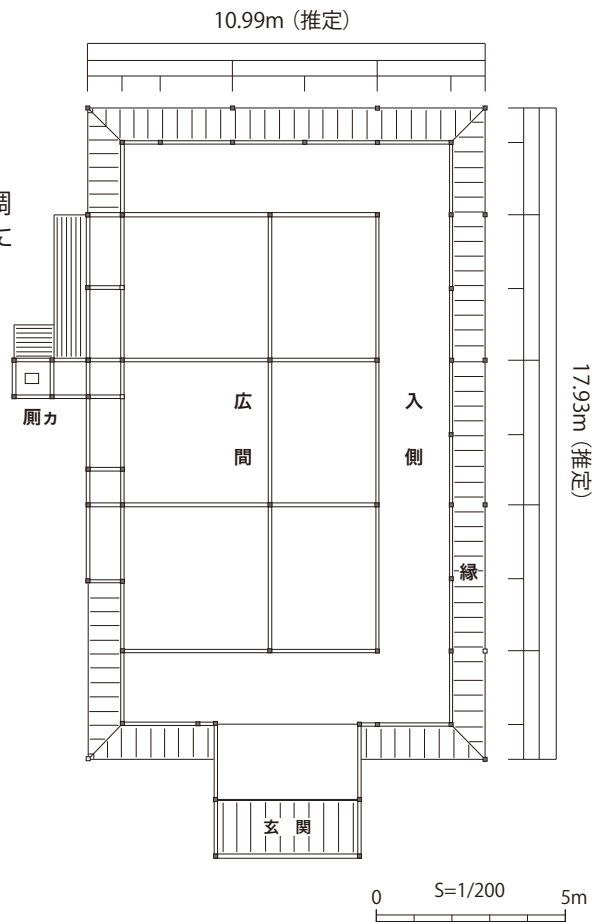
### 講堂変遷表

創建期(安政5年～)	梁行5間、桁行9間	広間・入側・縁配置
改築期(明治・大正)	2階建て、平屋増築	和洋折衷様式
移築期(昭和8年)	トラス導入の小屋組	コンクリ基礎部



丹波市教育委員会提供

柏原県庁及士族卒屋敷図(明治初期)



崇廣館・講堂の推定平面図(創建期)

※『柏原県庁及士族卒屋敷図』、『崇廣館時代図』、『崇廣館保存解体工事』をそれぞれ参照して作成

## 現地説明会資料

令和8年1月10日

かい ばら はん じん や あと

# 柏原藩陣屋跡 発掘調査の成果

事業名：柏原総合庁舎長寿命化改修工事

調査主体：兵庫県教育委員会

調査担当：公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター  
埋蔵文化財調査部

調査期間：令和7年11月7日～令和8年1月23日(予定)

調査面積：522㎡

兵庫県教育委員会

(公財)兵庫県まちづくり技術センター

埋蔵文化財調査部

〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町1-1-1

(兵庫県立考古博物館内)

URL: https://www.hyogo-ctc.or.jp



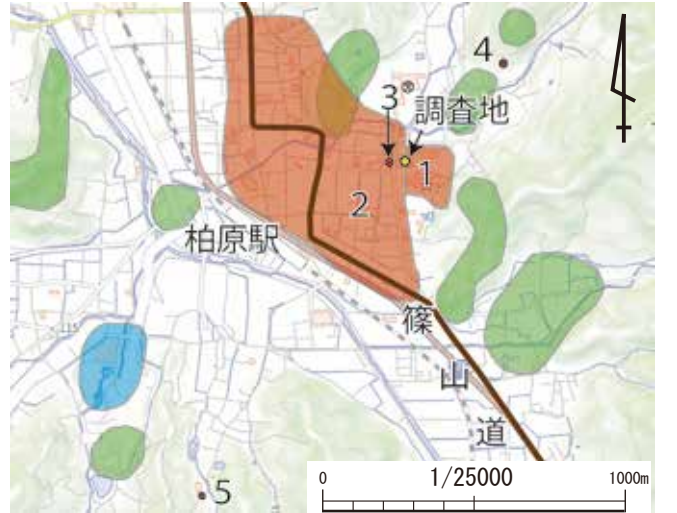
## はじめに

柏原藩陣屋跡は、丹波市柏原町柏原に所在し、譲葉(ゆずりは)山の西麓、奥村川左岸の微高地に立地します。今回、柏原総合庁舎の改修工事に伴い発掘調査を実施しました。

## 柏原藩陣屋跡と藩校「崇廣館」

柏原藩陣屋は、織田信長の子孫である信休が正徳4(1714)年に建てたもので、その後火災に遭いますが再建され現在に至ります。今回の調査地は、陣屋内の北西隅にあたり、江戸時代の絵図からは、米蔵や藩校があったと考えられます。

柏原藩の藩校「崇廣館」は、幕末の動乱期に領民たちの寄付によって建てられ、明治日本を担う人材を輩出しました。明治時代以降も建物は利用され、丹波地域の教育、行政の拠点でありつづけました。



1: 柏原藩陣屋跡 2: 柏原旧城下町 3: 旧広小路土堀跡

4: 織田家廟所 5: 織田信勝墓

■…古代 ■…中世 ■…近世

柏原藩陣屋跡周辺の遺跡分布

※地理院地図Vectorをもとに作成



調査区遠景(西から) ※柏原自治会館上空から撮影



丹波市教育委員会提供

明治後期～大正元年頃の崇廣館と尚徳門(改築期)

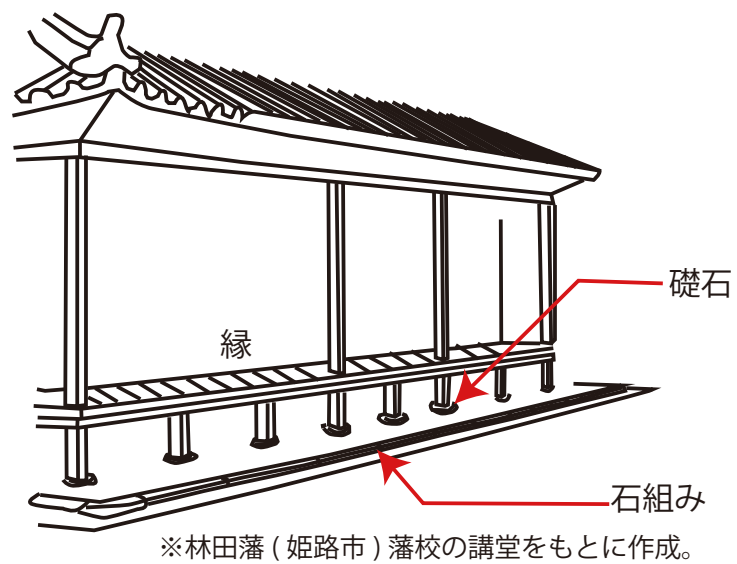


※『崇廣館保存解体工事』より

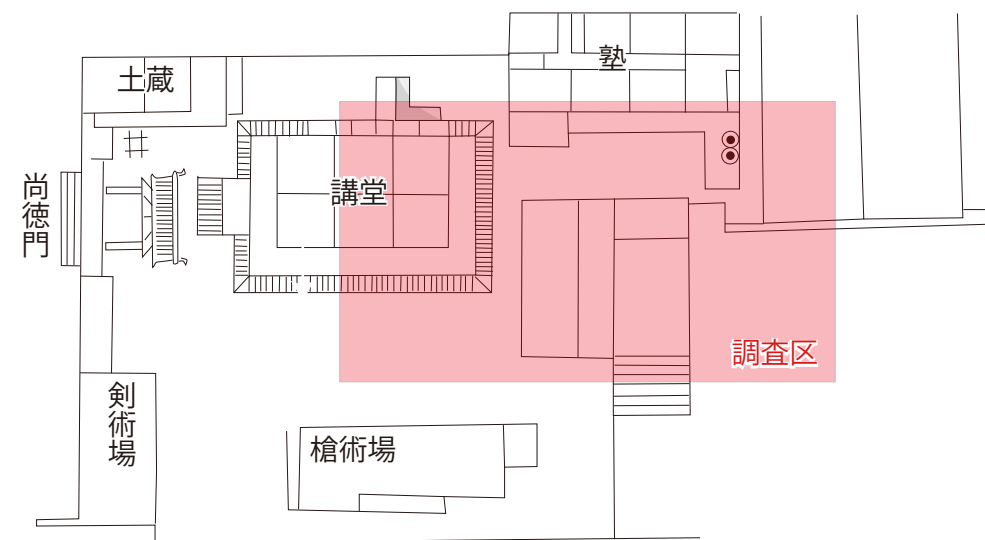
崇廣館の立面図(移築期)



いしぐ そせき  
石組みと礎石遺構の上屋（想定図）



崇廣館の位置と調査区



調査成果のまとめ

①藩校・崇廣館に関わる遺構を発見しました。

崇廣館創建期の講堂建物に伴う石組みと礎石遺構、また改築期の建物に伴う雨落溝や排水施設の一部がみつかりました。

今まで写真や絵図でしか判断できなかった崇廣館講堂部分の原位置を確定することができ、施設の全体像の把握につながる重要な成果となりました。

②藩校内の施設の一部を検出した数少ない調査事例です。

江戸時代に設立された藩校・私塾は全国で約300あり、そのうち藩校跡を発掘調査した事例は全国で30例ほどしかなく、県内では、姫路藩「好古堂」<sup>こうこどう</sup>、赤穂藩「博文館」<sup>はくぶんかん</sup>に次いで3例目となる貴重な成果です。

江戸時代



石組みと礎石遺構

明治時代



瓦列 (SD09)



明治時代



しっくい 漆喰土坑 (SK33)

明治時代



うめおけ 埋桶 (SK02) うめがめ 埋甕 (SK03)